

川辺河史

通史編



川辺町空撮写真（昭和50年）



川辺町庁舎



保健センター



川辺町中央公民館



B & G 財団川辺海洋センター



川辺漕艇場



やすらぎの家

序



飛騨街道の交通の要衝として、悠久の流れをなす飛騨川の中継点として発達した川辺町は、多くの段丘を形成して耕地が造成され、集落を発達させてきました。しかし長い年月の間には、あるときは洪水となり、あるいは渇水をもたらしたことも数限りなくあります。そして一方では、激流や深渕が変化にとんだ地形を形造って景勝を刻み、厳しい気象とあいまつて、風情を添える眺望を生み出してもいます。それとともに、地域には多くの文化がはぐくまれ、地勢風土によつて生じた独自の文化が中央の文化と融和し、地域文化として定着してまいりました。

これら四季の環境の変化に対処しながら、郷土を築いてきた先人の足跡を、その一つ一つの業績を知ることは重要な要素であります。それを理解して後世に伝えることは、現代に生きる者の責務であると考えます。こうした観点から、さきに史料編上・下巻を発刊して、一点一点の史料の解明を行い、私ど

も祖先の生活態様を明らかにしました。そして今度は、川辺町史の集大成ともいべき、通史編の刊行を見るに至りましたことは、誠に喜びとするところであります。

近年、川辺町は近代都市への脱皮が進捗しておりますが、歴史の積み重ねがあつてこそ、川辺町の将来が展望できるのです。その意味からも本書が、川辺町の発展を考えるよき指針となつて、町内外の有識者のご愛読を賜り、文化の向上のため、より一層活用されることを念じてやみません。

この通史編発刊にあたり、貴重な史料を提供された方々、それぞれの立場からご指導・ご助言をいただいた方々、そして編さん業務に従事された関係者のご努力に対し、深く感謝の意を表するしだいです。

平成八年二月

川辺町長

遠
森
裕

例　　言

一本史は、第一部記録の部、第二部文書の部に続くものとして、第三部歴史の部とした。

一本史は、川辺町の自然環境・歴史的背景および民俗を内容とした通史編であるが、歴史的背景に主眼を置いた。

一 第五章現代は、昭和二〇年から平成五年迄とした。

一 諸統計表は、川辺町統計書（平成五年）を引用した。

一 本文の用字は、新字体による当用漢字、新仮名づかいを原則とした。しかし固有名詞や特殊な用語等には、旧字体を用いたものもある。

一 本文中の人名は、歴史的記述の通例にならない敬称を省略した。

一 特殊な用語や難解な文字には、便宜にしたがつてふりがなを付した。

一 本文中の資料の引用は「　」で表示し、改行によるものは二字下げとした。

一 年号の表示は元号を用い、便宜にしたがつて（　）内に西暦年を併記した。

一 年月などの表示については、明治五年以前は旧暦を用いた。

一度量衡の表示は、原則として該当年代のものを使用した。

一 数字の表記は次によつた。

(例) 三百五十七一三五七

一万三千一百五十一一一万三三二五一

明治二十三年八月一(十三日)明治二三年八月一(三日)

一卷末に年表・付表を付記した。

背文字・扉文字

川辺町長

遠藤

稔